

令和4年度 いのちの授業 事例集（高校）【地歴・公民】

掲載数

35

管轄	学年	教科等	テーマ	内容	参考事項（講師・教材等）
1 横須賀市立	高複合	地歴 ・公民 ・社会	生命科学と倫理	「現代の諸課題と倫理」の単元における「生命科学と倫理」において、生命の大切さについて扱った。子どもを得る権利や胎児の人権について基本的な概念を理解したうえで、出生前診断や脳死、尊厳死について考えを深める活動を行った。特にiPS細胞については、DVD視聴を行い、その可能性や問題点の指摘、人間の尊厳とは何かというテーマで学びあいを行った。	講師は本校教師である。授業で使用している教科書をもとに、資料も加味しながら活動を行った。
2 神奈川県立	高3	地歴 ・公民 ・社会	生命の倫理 家族の課題	倫理研究の授業展開の中で、生殖技術の開発・安楽死・臓器移植法・バイオテクノロジーの進歩・少子高齢化・育児・介護制度等について現状を説明し、生徒の考えを発言させた。	過去のニュースを使用
3 神奈川県立	高1	地歴 ・公民 ・社会	防災小説「巨大地震が起きた。どう行動する？」	未来に起こるであろう超巨大地震、それに伴う津波や原子力発電所の事故、火山噴火などの災害が、日時を決めて実際に起きたと想定し、その時自分は何処にいて、どんな状況で、どんな行動をとっているのか、自分の状況を家族とどのようにして共有したのか等、実際の行動や体験、見える風景やその時考えている事を小説にし、お互いの体験をグループで共有しあった。守るものがあると行動を起こせることを小説にしている生徒が多く、災害を自分事としてとらえることができていた。実際の災害は生徒の想定をはるかに超える可能性があるが、それも想定内にすることを目指したい。	慶応義塾大学の木村聖子准教授の取り組みを参考にした。
4 神奈川県立	高2	地歴 ・公民 ・社会	平和学習	必修科目「世界史A」「世界史B」において、沖縄修学旅行（ガマ・平和記念資料館・体験学習）の事前学習を行った。沖縄の歴史・風土の学習とともに各種歴史的資料・現地の戦争体験者の言葉を通して悲惨な歴史上の事実に関する知識を習得した。史実の理解を深め、人間の尊厳・いのちの尊さを知った。また、いのちの重さを理解した上で、戦争を繰り返さないために社会の一員として何をすべきか考えさせた。	ICTを活用して情報の収集・整理・まとめに取り組んだ。
5 神奈川県立	高1	地歴 ・公民 ・社会	新しい人権	「公共」の授業において、新しい人権についてを考える中での自己決定権に関連させて、現代医療の現状について学習させた。教科書にある単語のインフォームド・コンセントだけでなく、延命医療・QOL・尊厳死・安楽死などの内容を理解するとともに、現代の医療の変化や課題について触れて思考を深めた。	
6 神奈川県立	高2	地歴 ・公民 ・社会	尊厳死と安楽死	尊厳死や安楽死、ターミナルケア等の授業を通じて、命の大切さを伝えた。	

7	神奈川県立	高3	地歴 ・公民 ・社会	いきがいと生きる意味	神谷美恵子の著書『生きがいについて』とビクトール・フランクル著『夜と霧』の抜粋を読み解くことにより、生きがいや生きる意味について考察し、併せてヒトラーややまゆり園事件の加害者が抱いた優性思想に基づく「生きる価値」について検証する。	教科書・副教材 教員が作成した原典抜粋プリント
8	神奈川県立	高複合	地歴 ・公民 ・社会	身近になった遺伝子検査とその在り方	近年、遺伝子検査キットの普及により、個人が自分の病気や体質、能力などの傾向について簡単に知ることができるようになった。 しかし、こうした遺伝情報は子々孫々にまで関わる情報でもあり、また、一度知ってしまったら戻ることのできないという点から、「知る権利」の裏にある「知らされない権利」という見方でこのテーマを考える授業を倫理において行った。 また、こうした検査はあくまで「傾向」を示すものであり、確定診断ではないにもかかわらず、結果を見たことで必要以上の精神的な不安に陥る場合があるなど、将来の生き方への影響についても考えた。	
9	神奈川県立	高1	地歴 ・公民 ・社会	自然災害と防災	世界でみられる自然災害や生徒自身の生活圏で見られる自然災害を基に、その仕組み・規模・頻度や、それらに対する地域性を踏まえた備え付けについての理解を深めた。 また、対策としてハザードマップなど各種地理情報を活用する技能を身に付けた。実際の災害の経験談と復興の様子を真剣に聞き、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察する生徒の姿が見られた。	教員作成のプリント
10	神奈川県立	高3	地歴 ・公民 ・社会	倫理 現代に生きる自己の課題 (自己理解と他者理解・いのち)	「最期までアイドル」「少年と余命告知」を視聴し、関連新聞(Webページ)を参照して、ワークシートに記入した。 「誕生」と「群青」「祝福」を鑑賞し関連新聞記事(Webページ)等を参照して、ひとの誕生や自分の人生の意義についてワークシートに記入した。また、家族の誕生の経験とロールプレイをイメージし、赤ちゃん人形を活用した感想と発表を行った。ワークシートの内容の集約を読み、自分の感想をまとめた。かけがえのない自分の人生について考察した。	ドキュメンタリーや音楽作品によって発信されたメッセージを受け止め、別の角度から発信された情報と合わせて、他者と自分との関係の意味を体感させた。赤ちゃん人形は家庭科より借用した。
11	神奈川県立	高3	地歴 ・公民 ・社会	世界史B 歴史を残すことについて考える	「古代中国英雄伝説 司馬遷と武帝」を視聴し、関連Webページを参照して、ワークシートで歴史を残すことについて考察した。また、その集約を読み、他の生徒の意見をふまえての自分の感想をまとめた。 「ヒロイン誕生! ドラマチックなオンナたち ジャーナリスト山本美香(後略)」を視聴し、関連Webページを参照して、現実を記録し発信する報道記者としての生き方について考察した。その集約を読み、他の生徒の意見をふまえて自分の感想をまとめた。	視聴覚教材よりイメージを具体化させ、歴史を記録・発信してきた人々の生き方を学び、自分の生き方を考える契機とすることができた。

12	神奈川県立	高1	地歴 ・公民 ・社会	公共と倫理	<p>①出荷（＝屍殺）を控えた牛の“ぼく”が、母牛に会いに行く物語を通して、人間に命を利用される動物（経済動物）の存在を意識させた。多くの生徒の第一印象は、「悲しい」、「切ない」などだった。</p> <p>②生徒の印象を読みあげ、自分たちの生活・命が、動物（経済動物）の命の犠牲の上に成り立っていることを、改めて認識させた。生徒の中には、犠牲にした動物のことを思い、余すことなく食べ物をとらなければならないと話す者もいた。</p> <p>③若年層の死因の第1位が自死であることを伝え、命の大切さを伝えた。</p> <p>④近年、他の動物の命を犠牲にしない生き方（ビーガン、ベジタリアン等）を志向する人が出てきていることを伝えた。</p>	<p>プロジェクターを用い、パソコンのスライドショーで絵本「もうじきたべられるぼく」を、読み聞かせた。</p> <p>生徒個々に、スライドショーの縮小印刷を配布し、物語を振り替えられるようにした。</p>
13	神奈川県立	高3	地歴 ・公民 ・社会	日本国憲法の平和主義・第二次世界大戦後の国際情勢	<p>日本国憲法の平和主義に関する学習において、全世界の人々が「平和的生存権」を享受するには何が必要か考えた。具体的には、日本国憲法成立から今日までの日本の安全保障体制の変化を確認した上で、国際政治の動向や軍縮の歩み、各地の紛争の事例などを学んだ。最終的には、世界平和の実現に向けて日本が取り組むべき課題について、生徒が個々に考察した。そこでは多角的な考察がなされ、戦争の抑止や軍縮だけでなく、食糧問題や環境問題への対処、経済格差の是正など、人が日々の生活を充実させていくための取組みも、自他のいのちの尊重につながり、世界平和の実現に寄与するという意見が出ていた。</p>	<p>（教材）教科書および資料集</p>
14	神奈川県立	高3	地歴 ・公民 ・社会	承久の乱における神風が後世どのように影響したか考察し、特攻隊をテーマにした映画から命の尊さを学ぶ。	<p>1274, 81年に起きた元寇（蒙古襲来）の戦いである、文永・弘安の役で、二度にわたる暴風雨、いわゆる神風が日本を救った。その神風の歴史について触れ、その後の日本の思想にどのように影響を与えたか考察した。授業のまとめとして、特攻隊に焦点をあてた映画「永遠の0」を鑑賞し、当時の特攻隊に半ば強制的に参加させられた主人公の思いや感情を読み取り、自分なりの考えをまとめたレポートを提出させた。命の尊さを知ると共に人を思いやることの大切さについて、考えさせることができた。</p>	
15	神奈川県立	高3	地歴 ・公民 ・社会	生命倫理の考え方	<p>脳死や尊厳死、安楽死に関する議論が進んでいる。肉体的のみならず精神的な人生の質をどのように判断し、その決定を誰がどう下すのか。その判断を下す自己決定権の議論は決められた答えがあるわけではない。科学技術の発達に伴って出現した人間の生と死の在り方、生命倫理について自己の考えをまとめ、他者の考えを聞いた。答えは一つではないこと、人生に対する考え方、死との向き合い方はそれぞれ異なり、全てが尊重される存在であることを確認できた。</p>	<p>帝国書院 高等学校 新現代社会</p>
16	神奈川県立	高3	地歴 ・公民 ・社会	自己決定権と生命倫理	<p>NHKスペシャル「彼女は安楽死を選んだ」を教材とし、同じ難病で安楽死を選んだ女性と選ばなかった女性について考えさせた。</p> <p>まず選んだ女性の方を視聴させ、彼女の意思を尊重すべきかどうかを考察し、グループで意見交換を行った。</p> <p>次に、選ばなかった女性の方を視聴させたところ、生徒は、家族との何気ない時間が、彼女が生き続ける理由であると理解したようであった。</p> <p>最後に、日本での安楽死の法制化の是非を、「命は誰のものか」という観点を踏まえて検討した。</p>	<p>NHKスペシャル「彼女は安楽死を選んだ」</p>

17	神奈川県立	高2	地歴 ・公民 ・社会	生命倫理	倫理の授業において「生命倫理」の内容をディスカッション形式で取り扱った。遺伝子操作やデザイナーベビーなどのトピックスを紹介し、それが倫理的に正しいと考えるかを問い、クラス内でディスカッションを実施した。自らの感情を、倫理で学習した思想家の考えを援用して理論立てて議論することで、生きることの意味、障害や病気を持って生まれた人の生命について、多角的に考察させることができた。	
18	神奈川県立	高2	地歴 ・公民 ・社会	太平洋戦争から「いのち」の尊さについて考える	太平洋戦争の末期、日本は沖縄による集団自決、神風特別攻撃隊等による特別攻撃、原子爆弾による被害等多くの命を失ってきた。そのなかで、特攻隊員の手紙を読み、失われた命ひとつひとつにストーリーがあることを実感させ、いのちの大切さについて考える取り組みを行った。多くの生徒が、いのちについて真剣に考え、文章で表現することができた。	教科書（実教出版「新日本史A 新訂版」）、プリント
19	神奈川県立	高1	地歴 ・公民 ・社会	民主主義のジレンマ	・ナチス・ドイツについて、なぜユダヤ人は虐殺の対象になったかについて取り上げた。 ・独裁者の統治方法は、いじめなどにも見られる構造がある。なぜヒトラーが権力を掌握することができたのかを学ぶことで、いじめの構造を学んだ。その上でユダヤ人虐殺を防ぐことができたのかを考えさせた。	現代社会 『わが闘争』 映画『独裁者』
20	神奈川県立	高1	地歴 ・公民 ・社会	様々な差別問題とその対策	憲法の人権問題の具体例として性のマイノリティに関する情報を通じ、多様な価値観や偏見を乗り越え共生社会を構築する大切さを授業を通じて生徒たちの身近な課題として考えさせる授業を実施した。	現社教科書及び資料集
21	神奈川県立	高2	地歴 ・公民 ・社会	二つの世界大戦の時代	ウクライナとロシアの戦争について基礎知識を学び、歴史的に考察した。 人権侵害の最たる例としての第一・第二次世界大戦を学ぶ中で、現在の世界で起きているできごとを自分事として捉え、自分や自分の大切な人の命や日常を守るために重要なことについて考えをまとめた。	東京書籍 「世界史A」
22	神奈川県立	高1	地歴 ・公民 ・社会	戦前と戦後の概念について	「歴史総合」において、戦争の概念を歴史的分野の授業と現代の社会情勢とを比較しながら学んだ。なぜ歴史の教科書には戦争がたくさん羅列されているのか。そもそも人間は戦争をどのようにとらえてきたのか。過去と現在とで前提条件は何が異なるのか。「いのち」を軸に歴史的思考と社会的思考を整理しながら学んだ。なぜ歴史上の人びとは戦争を選択肢の中から選んだのかという学びは社会系科目全体を通して学んでいかなければならないと生徒は認識することができた。	「歴史総合」教科書
23	神奈川県立	高2	地歴 ・公民 ・社会	「ヒロシマ」に関する平和学習	ポツダム宣言に対して、「黙殺する」と評した日本政府の対応を拒絶したアメリカによって、人類史上初めて原子爆弾が広島に投下された。その被害や影響を実際の写真や動画で見ることによって、生徒たちは大きな衝撃を受け、命の重さを強く感じているようであった。また広島で自分たちと同じ高校生が核廃絶を訴える活動を行っていることを知り、自分たちも平和を守るためにできることを考える機会になっていた。	①広島平和記念資料館 平和データベース ーヒロシマ・ナガサキ 核戦争のもたらすものー ②読売テレビニュース 終戦から77年 原爆の「記憶」を「未来」へ ③読売テレビニュース ウェークアップ ～「戦争」と「いま」～

24	神奈川県立	高1	地歴 ・公民 ・社会	「生命倫理」	「安楽死」を題材に、「生命の質」と「生命の尊厳」をどのように両立させるかを考えさせ、話し合いを行い、生徒は自分の考えをレポートにまとめた。	公共教科書
25	神奈川県立	高2	地歴 ・公民 ・社会	尊厳死について	延命治療を断り自然な形で死ぬことを選択した事例を通じて、いのちについて考えた。患者本人の意思表示の内容と、残された遺族の反応を知った際、驚きつつも共感する様子が見られた。また、自分が同じ立場に立ったらどうするかと問い、話し合い活動を行った。戸惑いつつも自分なりに答えを出そうとする様子が見られ、いのちの大切さや自分の生き方について考える生徒も多数いた。	新聞記事を活用した。
26	神奈川県立	高2	地歴 ・公民 ・社会	ゲノム編集について	遺伝子は、子の新しい体を作るための「命の設計図」とも言われ、この遺伝子を効率よく変えられる「ゲノム編集」という技術について考えた。生徒からは様々な意見が上がった。日本にはヒトの受精卵の遺伝子を変えてはいけないという法律はなく、心配する声もあった。	新聞記事を活用した。
27	神奈川県立	高複合	地歴 ・公民 ・社会	戦争と命・人権	第二次世界大戦中のヨーロッパを描いた映画を視聴した。内容は多くのユダヤ人の命を救った人物の行動を描いたものとした。生徒は戦争下において人命がいかにかに軽視されるか、またそれを救おうとする勇気ある行動がいかにかに崇高であるかを感じたようだった。	担当は地歴公民科の教諭。対象年次は2、3、4年次生。視聴した映画は「シンドラーのリスト」
28	神奈川県立	高2	地歴 ・公民 ・社会	死刑制度と裁判制度	死刑制度をめぐる国際的な潮流と日本の状況を学ぶことで、裁判によって人の生命を左右することが正しいことなのか、罪の重さと命の重さについて考えさせた。	教材：教科書と授業プリント
29	神奈川県立	高1	地歴 ・公民 ・社会	安楽死	新しい人権の単元において、自己決定権と関連付けて「安楽死」について扱った。「自分はどう生きたいか」「生きるとは何なのか」という問いに対して自分の考えを深めることを学習の目標とした。授業では「安楽死」についての知識を習得するとともに「安楽死の法律の是非」というテーマの基で話し合い活動を行い、生命観について真剣に考える機会となった。	参考教材「NHKスペシャル彼女が安楽死を選んだ」
30	神奈川県立	高2	地歴 ・公民 ・社会	関東大震災	「関東大震災」をテーマに日本史Aの授業を実施した。発生日時、発生状況、その後の日本社会に与えた状況等を説明。特に地震発生後の火災による甚大な被害状況を説明した。生徒からは、「命を守るには、地震だけでなく、火災にも注意が必要である」ことが理解できたとの感想を得た。その後の阪神淡路大震災及び東日本大震災等の状況を説明、生徒は、命を守る上で過去の教訓に学ぶことがいかにかに大事であるかを理解することができた。	日本史A担当教諭教科書「高等学校日本史A新訂版」（清水書院）
31	神奈川県立	高3	地歴 ・公民 ・社会	過労死について	労働とそれにまつわる「過労死」について、具体的な基準や認定された例を基に、自身自身の心と身体を守るためにはどうすればよいのかを考えさせた。	教科書

32	神奈川県立	高2	地歴 ・公民 ・社会	黒人奴隷貿易	黒人奴隷貿易に関わった貿易商や奴隷としての黒人の人々の生活を説明した文章、図版資料を読み解き、人権を中心にいのちの重みについてを考える作業を行なった。	教科書 プリント資料（リヴァ プールの博物館資料より 抜粋）
33	神奈川県立	高3	地歴 ・公民 ・社会	時事問題	3学年「現代社会」の授業内で、「ロシア・ウクライナ間の戦争」、「幼稚園バス内の幼児放置事件」、「安倍晋三元首相暗殺事件」について考えた。生徒たちに、事件の内容を分析させ、その中から命の尊さや関係者の心情などを考察させた。授業の感想等をワークシートに記入することで、生徒自身の考えをまとめた。	平成4年1月から12月の ニュース記事をインター ネットで検索し、その中 から関心度の高い事件を 取り上げた。
34	神奈川県立	高2	地歴 ・公民 ・社会	広島原爆投下 に関する平和学 習	修学旅行事前指導の一環として、広島歴史や原爆投下についての授業を行った。その中で爆心地の被爆前後を写真で比較し、原爆の恐ろしさ、戦争の悲惨さを伝えた。その後、修学旅行で訪問する平和記念公園について調べ、見学すべきポイントを整理した。	（教材） 地歴公民科教員による 自作プリント教材
35	神奈川県立	高2	地歴 ・公民 ・社会	各章において	世界史・日本史の中で、歴史上記録されている様々な自然災害が、社会に与えた影響について触れた。南九州の大噴火が縄文社会を終わらせたこと、江戸時代の浅間山の噴火により徳川幕府を改革せざるを得なかったことなどを扱い、地球規模の環境の変化が世界的な歴史の変革期に当たることなどを日本史世界史通じて、生徒たちが確認できるよう工夫した。	山川出版社詳説世界 史・詳説日本史